

体育	通年 週1回 2単位
担当者：鈴木 明	
講義の目標及び概要	
<p>(1)内容 教師として子どもの心身の発育の知識をふまえた上で、幼児・児童期の運動あそび・身体運動の重要性を理解し、その取り組み方をさぐる。内容としては走・跳の運動、身近なものを利用したゲーム遊び、ボール遊び、かくらべ、表現、リズム遊びなどを取り上げる。</p> <p>(2)カリキュラム上の位置付け 幼稚園、小学校指導要領をベースに教師としてそれらの内容を扱いながら、子ども達の健やかな成長を促していくために適切な働きかけができるようになることを目的とする。</p> <p>(3)学びの意義と目標 幼児、児童期（小学校低学年）の運動遊びや身体運動が個人の成長において身体発育のみならず、身体技能、心理、社会面などあらゆる面において有効であることは既知のことである。これらの運動技術に慣れ親しみながら、競争したり勝負の結果に着目することだけでなく、子ども達はその過程を楽しみ、さらにそこからの気づきにより自らの身体活動の技術やゲームのルールを改善できるといようなポジティブな方向性に運べる活動に発見や喜びを見出すにはどうするかを発見できることを目標とする。</p>	
評価方法	
授業参加への積極性、授業内容の理解と展開、個人技能の向上（個人に応じて授業最初のレベルから終了時までの過程）、チームへの協調性などを勘案して評価する。出席点50点（欠席－6点、遅刻（20分まで）・早退－2点/回）、評価点50点	
教科書	
授業の中で指示する	

体育	通年 週1回 2単位
担当者：高橋 進	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 教師として子どもの心身の発育の知識をふまえた上で、幼児・児童期の運動あそび・身体運動の重要性を理解し、それらへの取り組み方をさぐる。内容としては走・跳の運動、身近なものを利用したゲーム遊び、ごっこ遊び、劇遊び、ボール遊び、かくらべ、表現、リズム遊びなどを取り上げる。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 幼児、児童期の健全なる発育発達のために必要不可欠な身体運動の知識を得るための基礎となるべき授業である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 幼児、児童期の運動遊びや身体運動が個人の成長において身体発育のみならず、身体技能、心理、社会面などあらゆる面において有効であることは既知のことである。この時期は個人の人生をより豊かなものにしていく基盤づくりとして非常に重要な時期でもある。幼稚園、小学校指導要領をベースに教師としてそれらの内容を扱いながら、子どもたちの健やかな成長を促していくために適切な働きかけができるようになることを目的とする。</p>	
評価方法	
全授業回数の80%以上の出席がなされない場合は評価の対象としない。その上で、授業参加への積極性、授業内容の理解と展開、個人技能の向上、チームへの協調性などを勘案して評価する。出席50%、課題20%、指導実習・30%	
教科書	
授業の中で指示する	

体育科教育法	春集中 2単位
担当者：鈴木 直樹	
講義の目標及び概要	
<p>本講義のテーマは、体育授業づくりの視点とその活用である。また、本講義では、体育授業実践に触れながら自らの身体を問い、体育における、教師の児童と関わる素地を育成することが目的である。その為、次の各項目を学習の目標とする。</p> <p>1) 体育の学習観を捉えなおし、授業づくりの基盤を確立することができる。</p> <p>2) 体育授業実践上の教師としての構えを身につけ、教材研究を通し、カリキュラム論的な視点をもった授業づくりができる。</p> <p>3) 体育授業づくりの視点を明確にし、単元計画を立案し、指導案の作成ができる。</p> <p>講義を通して授業づくりをする上での基盤を構築したうえで、ビデオ等を利用し、各運動領域の特性を理解し、実践上の視点を明らかにしていく。その上で、実際に指導案を作成し、討議を行い、体育の指導についての理解を深めていく。また、近年、反省的实践家としての教師が強く求められているように、常に授業改善しながら、よりよい授業づくりに向けて努力ができる資質を養う必要がある。これが、いわゆる「授業の省察力」ということになる。この力を身につける為に、模擬授業を通し、授業分析を演習する。</p>	
評価方法	
ミニレポート(40%) 授業観察・授業分析(20%) 学習指導案(25%) 期末レポート(15%) 出席回数が授業全体の2/3未満である場合には欠席とし、評価の対象としない。	
教科書	
授業の中で指示する	

多文化共生演習	春 週1回 1単位
担当者：黒崎 佐仁子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 この授業では、「多文化とは何か」「多文化共生とは何か」を日本人学生だけでなく、留学生を交えたグループで互いに意見を交換し合いながら、物事を見る視点には多様性があることを学んでいく。授業はディスカッションや発表を中心に進めるため、黙って座っているのではなく、積極的に意見を口にしてもらいたい。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ この授業は人文学部日本文学学科の専門科目群文化論・比較文化系統科目の一つであり、日本語教員養成課程日本語学関係分野の科目の一つでもある。</p> <p>3. 学びの意義と目標 相互理解を進めるためのコミュニケーションとは何かを体験から学ぶことを目標とする。 ※留学生は日本語3（調査・発表）Aとして履修登録を行うこと。</p>	
評価方法	
出席20%、ディスカッション貢献度20%、クラスレポート20%、発表20%、レポート20%。	
教科書	
授業の中で指示する	

地域経済論	秋 週2回 4単位
担当者：瀬名 浩一	
講義の目標及び概要	
<p>〈内容〉 国内では東日本大震災後の被災地域復興、国外では環太平洋パートナーシップ協定(TPP)にどう関わるか注目される。生産年齢人口が半減する時代、巨大複合災害に有効な地域政策手段はどのようなものか。立ち上がるための地域経済協力の先例ヨーロッパ連合(EU)では1990年代、すでに局所から超国家に渡る様々のレベルで地域問題に取り組む姿勢の転換が起こったが、現在は政府債務問題で、存続の危機にさえさらされている。</p> <p>初めに日本の首都圏と地方圏の間の地域格差、第2に、「英国病」を克服し国際競争力を取り戻した英国と日本における地域の雇用、所得、成長率、失業率、格差是正策を比較。最後にEUで起こっている地域連合、権限委譲を参考にTPPの可能性と限界を探る。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉 1年生で学ぶ経済学、社会学の応用編、専門演習、卒業研究、地域圏研究の準備過程</p> <p>〈学びの意義と目標〉 地域経済統計の読み方、地域間格差が生まれる理由、格差を長引かせないための政策</p>	
評価方法	
出席点 30%、小テスト 40%、期末テスト30%	
教科書	
プリントを配布する	

地域圏研究(アジアA)	春 週2回 4単位
担当者：秋吉 祐子	
講義の目標及び概要	
<p>〈内容〉本授業は地球上の人間存続の本質的要件である「食・農・環境・循環型/持続可能社会・世界平和」の世界観に基づいた食料問題を中国を中心としてグローバルかつ複眼的に考察する。授業メニューは(1)共通認識を得るために教科書の輪番プレゼンテーション(プレゼン)とそれに関する質疑・応答と討論、(2)自主研究のプレゼンとそれに関する質疑・応答と討論、(3)上記世界観に基づくディベート、(4)各種文書作成(パワーポイントのレジュメ、輪読のレポート、自主研究の論文、プレゼンのフロアー評価レポート等)である。適時に講義、VTR活用授業を行う。各授業のメニューや課題等はNet Commons(担当者と履修生間の相互通信に使用するウェブサイト)を活用する。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉国際政治学系の専門科目であり、教職課程関連科目(でもある)。</p> <p>〈学びの意義と目標〉1. 上記テーマへの学習により人間社会の在り方を模索する。2. 履修生の主体的な問題発見・解決能力を育成する。3. 意見発表・意見交換・議論における発言能力と技術能力の育成(AO・AV機器を使用)。</p>	
評価方法	
評価項目授業内外課題の全て(プレゼン・レジュメ・司会・質疑/応答・討論・ディベート・レポート・論文等90%および授業態度10%)。但し担当日プレゼン・ディベートに無断欠席の場合は単位取得意思放棄とみなす。	
教科書	
授業の中で指示する 高橋 五郎『新世界食料危機の時代』論創社	

地域圏研究(ロシア・東欧)	秋 週2回 4単位
担当者：飯島 康夫	
講義の目標及び概要	
<p>1. 概要 20世紀初め反スラヴ主義的動向や20世紀後半の東西冷戦を思い起こせば明らかのように、つい最近まで「ロシア」は、ヨーロッパ各国にとっての、ひいては世界にとっての選択肢の一つであった。親ロシアか否かという問いは、20世紀には大変な重みを持っていたのである。ソ連崩壊以後、しばらくの間ロシアの存在感は希薄になっていたが、昨今では再び大国として力を誇示し始めている。21世紀においても、ロシアを知っていることが無駄になることはまずないであろう。</p> <p>2. 目標 隣国の歴史の概略を知ること。</p> <p>3. 目的 講義の目的は、ロシアに関する基本的な知識を獲得してもらうことにある。取り上げられる分野は、歴史、宗教、政治、思想、文学、芸術など、広範囲にわたる。</p>	
評価方法	
出席率(20%)と試験(30%)、小論文(50%)による。	
教科書	
軍事史学会編『日露戦争(一)』錦正社	

地域と文化	春 週2回 4単位
担当者：渡辺 正人	
講義の目標及び概要	
<p>本授業は、地域における民俗的な文化を訪ねることを通して、暮らした文化、文化がどのように「風景」を作り上げているか、ということを考えるものである。</p> <p>具体的には、授業時に大学周辺を訪ねながら「風景」を観察し、そこに現れる文化の様相を読み解くものである。散歩をしてみると、私たちの周りには風景が現れるが、それは人々の生活が作り上げてきたものである。たとえば、路傍に在る石造物は何を意味し、人々のどんな心や願いを表しているのだろうか、この道は何時頃からあり、人々のどんな生活を運んできたものだろうか、そうした想像力を養いたい。</p> <p>なお、観察の整理として、メンタルマップを作製する。</p>	
評価方法	
観察→発見→調査というサイクルができてきているかどうか。また、それにたいする取り組み態度によって評価する。	
教科書	
授業の中で指示する	

地域ビジネスの現場	秋 週1回 2単位
担当者：酒井 俊行	
講義の目標及び概要	
<p>この授業では地域ビジネスの現場を知ることを通じて、地域でどのような仕事が開かれ、それがどのような役割を担い、そこで働く人々がどのような生きがいを持っているかを学びます。</p> <p>授業の進め方としては、基本的に皆さんに積極的に参加して頂くことを原則とします。具体的には実務家講師を6人お招きし、地域で働くことの実際についてお話し頂きます。これは2回をペアとします。まず1回目では講師のお話を伺います。そして2回目では当番（皆さん）が前回の内容をまとめて要約し、そこから学ぶべきことを整理するようにします。次にそうした要約等を皆さんが再確認する中で、それをベースにディスカッションをしてもらうこととします。これを6回繰り返すことになるわけです。</p> <p>参加頂く企業としては、海外で活躍する製造業者、県内にセントラルキッチンを持つファストフード・レストラン、県内本拠で全国展開する製菓業者、伝統産業としての酒造業者、正規就業を後押しする人材派遣業者等を予定しています。またお話し頂く講師については皆さんが親近感を持てるように、成るべく若手の方々をお願いしたいと考えています。</p>	
評価方法	
出席点50%、平常点もしくは試験点を50%とします。	
教科書	
授業の中で指示する	

地域福祉	春 週2回 4単位
担当者：大塚 健司	
講義の目標及び概要	
<p>(1)内容 少子・高齢社会の進展に伴い、福祉をとりまく状況も急激に変化して来ている。 この講義では、このような状況や、介護保険、社会福祉基礎構造改革、障害者自立支援法など、福祉の体系や、社会保障制度の変遷について考え、さらに、社会福祉法で位置づけられた「地域福祉の推進」について考えます。</p> <p>また、「地域」と「福祉」がどう係わり合い、地域社会を形成しているのか、「福祉のまちづくり」について考えます。</p> <p>(2)カリキュラム上の位置づけ 行政系統の専門科目である。福祉諸制度と地域社会がどう関わっているのか基礎的なことを学ぶ。</p> <p>(3)学びの意義と目標 福祉諸制度と地域社会の関わりの中で、一住民として考え、地域福祉の基礎的なことを学ぶとともに「福祉によるまちづくり」を考える。</p>	
評価方法	
新聞記事等感想レポート20%、学期末レポート60%、出席20%によって評価を行う	
教科書	
プリントを配布する	

地域福祉論	春集中 2単位
担当者：牛津 信忠	
講義の目標及び概要	
<p>・ 地域福祉の基本的考え方を次の内容に沿って講義していく。 1人権尊重、2権利擁護、3自立支援、4地域生活支援、5地域移行、6社会的包摂等を含む（順番は理解度に即して変更されることがある）</p> <p>・ 地域福祉の主体と対象について理解する。</p> <p>・ 地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。</p>	
評価方法	
授業出席率、授業終了前に実施する（授業二回に一度10分程度）小テスト、学期末の論文形式のテストで総合的に評価する。	
教科書	
授業の中で指示する	

地域福祉論	春 週2回 4単位
担当者：牛津 信忠	
講義の目標及び概要	
<p>・ 地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む。）について理解する。</p> <p>・ 地域福祉の主体と対象について理解する。</p> <p>・ 地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。</p> <p>・ 地域福祉の推進方法 （福祉ニーズの把握方法、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法を含む）について理解する。</p> <p>（講義の順番は理解度に応じて変更されることがある）</p>	
評価方法	
授業出席率、授業終了前に実施する（授業二回に一度10分程度）小テスト、学期末の論文形式のテストで総合的に評価する。	
教科書	
授業の中で指示する	

地球環境論研究	秋 週1回 2単位
担当者：村上 公久	
講義の目標及び概要	
<p>環境史を概観し産業革命以後の環境問題を省みた上で、ストックホルム「国連人間環境会議」(1972年)と以降の各地地球環境問題を巡る国際会議、特にUNCED「国連 地球サミット」(1992年)での「環境と南北問題」の取り組みを中心に、近年の地球環境問題を巡るアジェンダの変遷とその背景を考察する。次に、国際化またglobalization全球化における地球環境問題への取り組みのあり方を検討する。急速な国際化の進展に伴い、国民国家の枠組みが解消してゆき、世界の担い手がコミュニティーと超国家機構とに分極してゆく中で「水と空気に 国境はない」環境問題の解決の方途をSustainable Development「保続的(持続的)発展」の観点から考える。</p>	
評価方法	
<p>ディスカッションへの参画(出席を含む)と寄与・貢献50%、レポート50%により評価。</p>	
教科書	
<p>プリントを配布する</p>	

地誌学概説A	春 週1回 2単位
担当者：秋山 秀一	
講義の目標及び概要	
<p>〈内容〉 世界の各地では色々な人々がそれぞれに、その土地に根ざした暮らしをしています。この授業では世界の各地、特にアジア諸国と太平洋の島々における人々の暮らしの様子、自然、風土等を、具体的に取り上げていきます。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 国際理解を深める上で、より理解度を高めることに大きく寄与します。 〈学びの意義と目標〉 卒業後どのような仕事に就こうと、国際理解を深めることは意義があり、重要なことです。実際に海外でのフィールドワークを通して得た映像、資料、それに、書籍、雑誌、テレビ等のメディアとのかかわりの中から、具体的な話をしていきます。</p>	
評価方法	
<p>日頃の授業への貢献度(30%)、出席状況(30%)、小レポート、それにまとめとしてのレポート(40%)等から総合的に評価します。</p>	
教科書	
<p>秋山秀一『フィールドワークのスズメーアジア観光・文化の旅』学文社</p>	

地誌学概説B	秋 週1回 2単位
担当者：秋山 秀一	
講義の目標及び概要	
<p>〈内容〉 世界の各地では色々な人々がそれぞれに、その土地に根ざした色々な暮らしをしています。この授業では世界の各地、特にヨーロッパ諸国並びにアメリカにおける人々の暮らしの様子、自然、風土等を、具体的に取り上げていきます。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 国際理解を深める上で、より理解度を高めることに大きく寄与します。 〈学びの意義と目標〉 卒業後どのような仕事に就こうと、国際理解を深めることは意義があり、重要なことです。実際に海外でのフィールドワークを通して得た映像、資料、それに、書籍、雑誌、テレビ等のメディアとのかかわりの中から、具体的な話をしていきます。</p>	
評価方法	
<p>日頃の授業への貢献度(30%)、出席状況(30%)、小レポート、それにまとめとしてのレポート(40%)等から総合的に評価します。</p>	
教科書	
<p>秋山秀一『秋山秀一の世界旅』八千代出版</p>	

地誌学特講A	秋 週1回 2単位
担当者：平 修久	
講義の目標及び概要	
<p>1 内容 地誌学は、ある特定した地域内における地理的事象を自然・人文両方の見地から研究する学問である。本講義では、都市の形成過程、見方、発展・衰退要因という概論を踏まえた後、東京について、空間的な発展・変遷の歴史の観点から学ぶ。 平安時代から江戸時代と、明治時代以降に分け、前者について時代の流れを踏まえて学び、後者については分野別に学ぶ。 2 カリキュラム上の位置づけ 自然地理学概説、人文地理学概説をベースにした教職関連科目の一つである。また、まちづくり学の一部の講義内容とも関連している。 3 学びの目的 地理学の重要な対象の一つである都市について、発展と変遷という歴史的事象とその背景などの理解を深めることが、本講義の学びの目的である。</p>	
評価方法	
<p>配点は、出席点20%、課題・小テスト30%、期末テスト(もしくはレポート)50%の予定。</p>	
教科書	
<p>授業の中で指示する</p>	

地方自治法	春 週2回 4単位
担当者：鹿谷 雄一	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 憲法第8章で保障されている地方自治。これについて法的側面から一般法である地方自治法を中心に、組織や活動、財務など地方自治の基本的なしくみについて解説する。とくに、都道府県や市町村が制定する「条例」を手がかりに、地方自治がどのように制度化され運営されているのかをみていく。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 憲法・行政法など法律系の科目のほか、地方自治論、行政学、地方財政などの科目を広く学ぶことで地方自治の理解をより深めることができる。</p> <p>3. 学びの意義と目標 2000年の地方分権一括法、その後の分権改革の進展や財政健全化法の制定、自治基本条例の広がりなど地方自治を取り巻く環境が変化している。こうした地方自治の変化を理解するとともに、身近な地方自治のしくみを理解する。 【参考書】木佐・田中『自治体法務入門』（ぎょうせい）。宇賀克也『地方自治法概説』（有斐閣）。今井照『図解よくわかる地方自治のしくみ』（学陽書房）。</p>	
評価方法	
レポート:30%、期末試験:40%、毎回の小課題:30%により評価する。なお、小課題には自宅学習も含む。	
教科書	
プリントを配布する	

地方自治論	秋 週2回 4単位
担当者：鈴木 潔	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 本講義では、これまでの地方自治論の蓄積を利用し、日本の地方自治について(1)制度、(2)機構、(3)政策、(4)管理、(5)住民という視点から説明する。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 本講義は、行政学、まちづくり学、地域社会論、地方自治法、地方財政、公共政策論などを学習するうえで重要なポイントとなる地方自治の仕組みに関する知識を提供している。</p> <p>3. 学びの意義と目標 自治体は私たちの日常生活から縁遠い存在であると思われがちだが、自治体の提供する行政サービスの良し悪しは人々の暮らしを大きく左右している。この講義では、受講者が地域における様々な問題や地方自治の仕組みを考察できるようになることを目標とする。 なお、磯崎初仁・金井利之・伊藤正次『ホーンブック地方自治〔改訂版〕』北樹出版（2011年）を参考書とする。</p>	
評価方法	
基本的には試験の成績によって評価を行うが、毎回の講義で実施する小テストや平常点（出席状況、講義への貢献度など）も加味される。(1)試験(80%)、(2)小テスト(10%)、(3)平常点(10%)	
教科書	
プリントを配布する	

中学校教育実習（PL用）	春 週1回 5単位
担当者：小川 洋	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容：実際に実習校において教壇に立つ直前の準備と3週間の学校での実習そして反省、とからなる。実習が実り豊かな経験となるように十分な準備を行う。そのため、今まで学習した「教科教育法」などの知識を生かしてより実践的な教科指導、生徒指導のあり方について具体的な用意や気持ちの準備をする。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ：「教育原理」から始まった教職課程の仕上げの科目である。この科目では学校での実習指導者からの評価を参考に評価がつくことになる。あらゆる意味で、それまでに学校現場で十分に通用する能力・知識・技術が身につけていることが前提になる。</p> <p>3. 学びの意義と目標：学校運営の実際などについての講義をつうじて、実習生の勤務のあり方・心得などについての理解を深める。また、実習校の情報を収集しながら、より充実した教科指導のあり方について研究し、教材の準備などを進めてもらう。</p>	
評価方法	
実習校からの評価と報告および事前・事後の授業での取組み状況などから総合的に評価する。	
教科書	
授業の中で指示する	

中学校教育実習（A用）	春 週1回 5単位
担当者：長崎 睦子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容：本講義は(1)教育実習において適切な指導ができるように準備を行う(2)実習を体験する(3)実習を振り返りレポートを書き、英語教職課程の学生全体に対して体験報告をすることから構成される。そのために、まず教育実習の流れを把握し、次に教育実習で使用する教科書を使って教材研究、指導案の作成、模擬授業を行い、実習前にできるだけの準備をしていく。実習後は、今後の自分の教育活動・就職活動に活かせるよう、実習体験を振り返りまとめること、また、これから実習に臨む後輩のために報告を行うことを求める。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ：教職課程における4年生の必修科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標：英語科教育法や教職課程のこれまでの講義で学んできた知識・知見と模擬授業で培ってきた経験を基に、実際の教育現場で「教師」として適切な指導を行うことが目的である。実習を通して様々な教育活動に携わり、現場を観察をし、生徒と接することにより、中学校・高等学校教育現場の日々の実態を知る。またその経験の中で、教師としての自分の適性を見極め不足していると思う部分は努力して改善していく。</p>	
評価方法	
出席20%、指導案・模擬授業30%、実習レポートと報告20%、教育実習日誌30%によって算出する。*評価内容は変更する場合があります。その場合は、授業内で説明をするので確認をすること。	
教科書	
授業の中で指示する 『英語科教育実習生のためのミニマム・エッセンシャルズ』現代教育社	

中学校教育実習 (J用)	春 週1回 5単位
担当者: 熊谷 芳郎	
講義の目標及び概要	
<p>◆内容◆ 本講義は、本番の「教育実習」に備えて、実習の具体的内容、実習生としての心得、学校、また、学習の場をどう作るか、どう支援しよう指導するのかといった実践方法についての演習も行う。同時に、卒業後の教育職に就くための具体的な準備や手続きについても具体的に扱う。</p> <p>◆カリキュラム上の位置づけ◆ 教職課程における4年生の必修科目である。中学校での教育実習を控え、これまでに学んだことを実践の場に生かし、それを検証するために、実践的な準備と結果の分析とを行なう。それによって、教育職として世に出るための総まとめとしてほしい。</p> <p>◆学びの意義と目標◆ 「教育実習」において、学校教育の現場に入り、「教師」として子どもたちの前に立つ。「実習」とはいえ、学校は、子どもたち一人ひとりにとってはかけがえのない学びの場であり、成長の場である。そのようなときに「教師」としてどのように出会い、その学習活動に携わったらいのかをつかみとってほしい。</p>	
評価方法	
出席重視。授業に関する提出物50%、教育実習報告書の内容50%を基本として評価する。	
教科書	
授業の中で指示する	

中国語 I (初級A)	春 秋 週2回 2単位
担当者: 関 子謙	
講義の目標及び概要	
<p>1. 目的 本講義は、日本語を母国語とする学生が「音声言語としての中国語」の基礎を作るのが主な狙いである。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 初級段階で、入門的な位置づけである。</p> <p>3. 学びの意義と目標 中国語の知識としてでなく技能として学ぶ場合に、むやみに先を急ぐことは禁物です。必ず今習っていることが確実に身に付くまで、繰り返し練習し、更に誤りを恐れず積極的に声を出すことが必要です。簡単に理解ができ、簡単に習得し、そして気軽に話せるようにするのが目標です。</p>	
評価方法	
定期試験 (60%)、出席状況 (10%)、受講態度 (30%) により総合的に評価。	
教科書	
授業の中で指示する	

中国語 I (初級A)	春 秋 週2回 2単位
担当者: 福田 素子	
講義の目標及び概要	
<p>内容: ピンインという中国語の発音記号とその発音方法を身につけ、さらに基礎語彙・基本のセンテンスを学習する。</p> <p>カリキュラム上の位置づけ: 本講義は、初めて中国語に触れる中国語を母語としない学生を対象とする。</p> <p>学びの意義と目標: 中国語の基礎を身につけるとともに、日本語や英語と比較しながら中国語とは(また日本語とは)どのような言語であるかを考える視座を身につける。また外国語を学ぶとはどういうことかを考える。</p>	
評価方法	
出席 (40%)・試験 (40%)・授業態度 (20%) により総合的に評価する。	
教科書	
相原茂/陳淑梅/飯田敦子『初級テキスト 日中いぶこみ広場』朝日出版社	

中国語 I (初級A)	春 週2回 2単位
担当者: 新田 小雨子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 講義内容 本講義は、VT法 (Verbo-Tonal Method) を使い、日本語母語話者の中国語学習者に対する発音指導を行う。使用テキストは基礎文法だけではなく、日常生活の中で使われるさまざまな表現も多く織り込まれている。さらに、異文化コミュニケーションに関する知識もたくさん取り上げられている。言語そのものを学ぶだけでなく、中国とはどんな国か、言語を学ぶことを通して、中国の文化、風習なども知ることができる。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 中国語入門段階の講義である。初めて中国語にふれる学生を対象とする。</p> <p>3. 学びの意義と目標 本講義では、会話を中心とし、いろいろな場面に応じた表現を理解した上で、応用できるようにロールプレイによる会話練習を行う。中国語の発音、基礎文法を身につけるだけでなく、簡単な自己紹介、日常の挨拶表現ができるようになることも本講義の目標である。</p>	
評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・出席状況、平常点、試験によって総合的に評価する。 ・割合は出席30%、平常点40%、試験30%です。 	
教科書	
相原茂・陳淑梅・飯田敦子『初級テキスト 日中いぶこみ広場』朝日出版社	

中国語Ⅱ(初級B)	春	秋	週2回	2単位
担当者：閻 子謙				
講義の目標及び概要				
1、目的 本講義は中国語の世界に第一歩を踏み出すことになった学生を対象としている。				
2、カリキュラム上の位置づけ 中国語Iで学んだ発音や文法の基本を復習・補足し、初級終了。				
3、学びの意義と目標 基本表現学習の上立って、特定のシチュエーションを想定し、学生一人ひとりのレベルや要求に応じる形で幅広い表現力を養い、最終的に簡単な日常会話や自己紹介などができることを目標とする。				
評価方法				
定期試験(60%)、出席状況(10%)、受講態度(30%)により総合的に評価。				
教科書				
授業の中で指示する				

中国語Ⅱ(初級B)	春	週2回	2単位
担当者：福田 素子			
講義の目標及び概要			
内容及びカリキュラム上の位置づけ： 2011年秋学期の「中国語I(初級A)」(福田)の続きを行う。			
学びの意義と目標： 一通りの中国語文法と語彙を身につけ、中国語でのコミュニケーション能力の基礎とする。中国語の各種検定受験のスタートラインに立てる語学力を身につける。			
また、日本語とは何か、言語とは何かという問題意識も持てるようになってほしい。			
なお、白水社の『コミュニケーション中国語』シリーズの教科書を使う授業は、これが最後である。『一年生のコミュニケーション中国語』で初級Aを学習し、初級Bの履修を希望する者は出来る限りこの授業を履修すること。			
評価方法			
出席(40%)・試験(40%)・授業態度(20%)により総合的に評価する。			
教科書			
塚本慶一・劉穎『2年生のコミュニケーション中国語』白水社			

中国語Ⅱ(初級B)	秋	週2回	2単位
担当者：新田 小雨子			
講義の目標及び概要			
1. 講義内容 本講義の使用テキストは基礎文法だけではなく、日常生活の中で使われるさまざまな表現も多く織り込まれている。さらに、異文化コミュニケーションに関する知識もたくさん取り上げられている。言語そのものを学ぶだけでなく、中国とはどんな国か、言語を学ぶことを通して、中国の文化、風習なども知ることができる。			
2. カリキュラム上の位置づけ 中国語初級段階の講義である。中国語に関する初歩的な知識を有する学生を対象とする。			
3. 学びの意義と目標 本講義では、会話を中心とし、いろいろな場面に応じた表現を理解した上で、応用できるようにロールプレイによる会話練習を行う。中国語の発音、基礎文法を身につけるだけでなく、簡単な自己紹介、日常挨拶表現、買い物や旅行などの時に使用される表現を話せることも本講義のねらいである。			
評価方法			
・出席状況、平常点、試験によって総合的に評価する。 ・割合は出席30%、平常点40%、試験30%です。			
教科書			
授業の中で指示する 相原茂・陳淑梅・飯田敦子『初級テキスト 日中いぶこみ広場』朝日出版社			

中国語コミュニケーションA	春	週2回	2単位
担当者：閻 子謙			
講義の目標及び概要			
1、目的 初級の段階を終え、更に一段と上のレベルの中国語を学ぶ学生を対象とする。			
2、カリキュラム上の位置づけ 発音の正確さ、ピンインのマスターを確認しつつ、積極的に話し、楽しい中国語を味わう中級に相当する科目である。			
3、学びの意義と目標 改革開放政策に転じて以来、中国は大きな変貌を遂げた。市場経済を導入したことによって、社会の構造が激しく変化し、中国人でさえも、しばらく中国から離れていて帰国すると、まるで異国へ来たかのような印象をもつと言う。地理的に近く、交流の歴史も長いお隣の国である中国と、そこで暮らす人々の生活習慣、価値観に触れ、最新知識を増やし、更に中国語の力を伸ばすことを目標とする。			
評価方法			
出席状況(10%)、受講態度(30%)、定期試験(60%)により総合的に評価。			
教科書			
プリントを配布する			

中国語コミュニケーションB	秋 週2回 2単位
担当者：福田 素子	
講義の目標及び概要	
<p>授業内容： 中国語文法初級の学習を継続しながら、可能な限り広告や映画DVDや新聞・雑誌など様々な教材を用い、中国語によるコミュニケーションや中国の文化を学ぶ。</p> <p>カリキュラムにおける位置づけ： 中国語の文法項目についての知識を増やしなが、中国のメディアに触れ、文化に対する理解を深める。また母語でない言語による会話を訓練する。</p> <p>学びの意義と目標： 聞く・話す能力はもちろんのこと、中国話話者のものの考え方、コミュニケーションをとる時に留意する点についても身につけていきたい。</p>	
評価方法	
出席・授業態度・レポートを等分に重視する。	
教科書	
授業の中で指示する	

中国思想	春 週2回 4単位
担当者：大坊 真伸	
講義の目標及び概要	
<p>【講義内容】 (1)本年度の講義は中国思想の代表「諸子百家」を扱う。 (2)日本文化学科の学生が多いことを鑑み、日本文化に関連が深い事柄を紹介していく。 (3)漢文訓読の基礎を学ぶ。</p> <p>【備考】 中国の思想に触れてもらうため日本語訳を読み、その日本語訳から漢文(原文)を読解するような授業を行う。中国思想の特徴、正確な漢文訓読を講義の目的とするが、漢文読解についてはあまり枝葉末節に拘らないようにしたい。初めから漢文をスラスラ読める人間はいないので、あまり気を張らずに受講してほしい。間々、漢字について触れることもあるので、漢和辞典は必携とする。</p>	
評価方法	
通常の定期試験(レポート)・出席状況・小テスト・授業態度によって評価する。 小テストは毎時間行う。	
教科書	
菊池 隆雄 他『【基礎から解釈へ】漢文必携』桐原書店	

中国文学	秋 週2回 4単位
担当者：濱田 寛	
講義の目標及び概要	
<p>(内容) 中国六朝期の志怪小説の講読を中心とし、漢文読解力の涵養、基礎的な工具書の扱い方等にも配慮する。 (カリキュラム上の位置づけ) 中国の古典作品の読解・鑑賞を通して、中国文化の一端に触れるとともに、日本文化を改めて見つめ直す契機としたい。本講義は中高の国語科教員の免許取得を目指す学生には必修となっている。 (学びの意義と目標) 中国文学史上の「志怪小説」の位置づけを理解するとともに、具体的な作品の読解を通して、その作品世界に触れたい。また、上記のカリキュラム上の位置づけを踏まえて、基礎となる「訓読」についてより深い理解を目指す。</p>	
評価方法	
出席点:30% 小レポート:20% 学期末レポート:50%	
教科書	
授業の中で指示する	

地理歴史科教育法	秋 週1回 2単位
担当者：小川 洋	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容:まず「地理」・「日本史」・「世界史」の3科目からなる「地理歴史」教科の構成について、「学習指導要領」の変遷および現在の指導要領の構成・内容について学習する。これは基本的な知識として求められる。これらの基本を抑えたうえで、実際の授業を前提とした学習を進める。そのため、授業の初期の段階で、模擬授業で扱いたいテーマを決めて、早い時期から十分な教材研究に努めてもらう。年間計画の作成、学期単位の授業計画、単元単位の授業計画などの計画作成も行う。後半の授業では模擬授業を行う。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ:高等学校の「地理歴史」の教育職員免許状取得に必要な必修科目であり、教育実習準備の性格も持つ。したがって、より実践的な学習に取り組むことを通じて、教科指導に必要な知識と技術などを習得することを目指す。</p> <p>3. 学びの意義と目標:自信を持って教育実習にいけるだけの能力や技術をしっかりと見につけてもらう。</p>	
評価方法	
授業への参加状況、模擬授業や授業計画案の提出などによって総合的に評価する。	
教科書	
授業の中で指示する	

哲学	春 週2回 4単位
担当者：高橋 章仁	
講義の目標及び概要	
<p>《内容》 哲学は、考えることの大切さを教えてくれる学問である。しかし、受身の姿勢で接していても哲学は何も教えてくれない。自分の頭で考え、主体的に哲学することなくして、豊かな学びは得られない。本講義（春学期）では、近代以降の哲学史の流れを、実際に哲学者が語ったテキストを通じて丹念にたどり、ともに考えながら、なるべくわかりやすく解説していきたいと思っている。なお、一人の哲学者の思想をじっくりと読みたいという人は、秋学期の「哲学」を受講されたい。</p> <p>《カリキュラム上の位置づけ》 考えることは、あらゆる学問を根本から下支えするものである。その意義を学び、考える力を磨くことで、各専門分野の研究に生かしてほしい。</p> <p>《学びの意義と目標》 取り上げる思想のどれもが、単なる過ぎ去った思想ではなく、現代にも十分通用しうるものを備えており、そこから学ぶべきところは決して少なくないはずである。この講義を通じて、受講者それぞれが、今の、そして、これからの自分の生きる糧となりうるような思想を見つけ出すことを期待している。</p>	
評価方法	
<p>学期末試験（教場レポート）の点数〔70%〕に、出席・授業態度などの平常点（状況に応じて小テストを行うことも考えている）〔30%〕を加味して総合的に判断する。</p>	
教科書	
プリントを配布する	

哲学	春 秋 週2回 4単位
担当者：石田 安実	
講義の目標及び概要	
<p>《内容》 二つの興味深い哲学的トピック、行為と思考に関するものを扱う。第一の行為に関しては、倫理的行為と呼ばれるものは何なのかを様々なケースや理論を通して考える。倫理的行為とはどんな時に「善い」「悪い」と決まるのだろうか。それは、「倫理」や「道徳」とは何かという深い問題につながっている。第二に、私たちの思考の中心にある「心」とは何なのかを論じる。私たちの「心」を（たとえば科学で）「客観的に説明する」のは、可能なのだろうか。可能でないとすれば、それは「心」のどんな特質ゆえなのだろうか。この授業では、「心」の特質とそれを説明する理論を概観することで、「心」の本質に迫ることを目標にする。講義は、現実起こっているケースを考察する形で進める。受講者との意見交換も期待します。</p> <p>《カリキュラム上の位置づけ》 教養科目・総合科目および専門科目「哲学・思想」分野の必修科目。</p> <p>《学びの意義と目標》 哲学は難しい議論と思われがちですが、哲学的思考は私たちの日常の考え方につながっており、ちゃんとした手続きを踏めば「哲学する」のは決して難しい作業ではありません。それを学ぶのが目標です。</p>	
評価方法	
<p>出席・平常点（20%）、ミニ・レポート2回（20%）、期末レポート（60%）</p> <p>授業中の携帯などは厳禁。全体の1/3の欠席で成績のアルファベット一つに影響。レポートは、他の文書や他の受講者のもののコピーの場合は不合格。</p>	
教科書	
授業の中で指示する	

哲学	春 週2回 4単位
担当者：小林 剛	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容</p> <p>本講義では、西洋哲学とは何か、その本質を知るために、西洋に初めて本格的に導入された哲学・学問は一体どのようなものであったかを学ぶ。具体的には、古代ギリシアの最も代表的な哲学の一つであり、最後の哲学でもあったアリストテレスの哲学が、プラトン主義の影響を受けながら、どのような仕方でもローマ世界、イスラム世界に受容され、西洋に伝わったかを見る。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>全学部全学科に向けた教養科目・総合科目であり、人文学部欧米文化学科の専門科目でもある。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>日本をはじめ現代世界の基礎をなしている西洋由来の制度、学問の根底にある基本的なものの考え方を理解するために、さらにその根底にある最初の西洋哲学で何がどのように問題にされていたのかを学ぶ。</p>	
評価方法	
<p>毎回の講義後の小テストの点数（80%弱）と期末試験の点数（20%強）の合計点で評価する。</p>	
教科書	
授業の中で指示する	

哲学	秋 週2回 4単位
担当者：佐藤 啓介	
講義の目標及び概要	
<p>1) 内容</p> <p>本講義は、主に二つの内容を扱います。前半では、哲学（特に西洋哲学）とはどのような学問であるか、またその歴史を解説した後、哲学が伝統的に扱ってきた問題を「真」「善」「美」という領域に分け、入門的な解説をします。後半では、現代の哲学の展開やその意義を理解するため、私たちの身近な生活にも関わるような問題（愛、都市、命など）を、哲学がどう扱っているのかを解説します。</p> <p>2) カリキュラム上の位置づけ</p> <p>欧米文化学科の専門科目「哲学・思想」分野の必修科目、他の5学科では教養科目としての選択必修科目です。思想分野をはじめ、多くの科目の基とも基礎となる科目です。</p> <p>3) 学びの意義と目標</p> <p>哲学では、個々の知識を覚えることではなく、自分の力で考えることが重要です。ただ、それは一人で自在にできるものではなく、過去の思想家たちの思想が大きな手助けとなります。そうした助けを借りながら、自分が興味を持っている問題に自分なりの考えを深め、それを言葉で表現できるようになることが目標です。</p>	
評価方法	
<p>学期末レポート（40%）、中間レポート（30%）、出席点（30%）</p>	
教科書	
プリントを配布する	

哲学	秋 週2回 4単位
担当者：高橋 章仁	
講義の目標及び概要	
<p>《内容》 哲学は、考えることの大切さを教えてくれる学問である。しかし、受身の姿勢で接していても哲学は何も教えてくれない。自分の頭で考え、主体的に哲学することなくして、豊かな学びは得られない。本講義（秋学期）では、20世紀ドイツの哲学者カール・ヤスパースの『哲学入門』（新潮文庫）を精読し、その思想を解説していく。なお、様々な哲学者のテキストを読みたいという人は、春学期の「哲学」を受講されたい。</p> <p>《カリキュラム上の位置づけ》「入門」を銘打った著作ではあるが、内容は必ずしも平易ではない。哲学的な知識をつねに確認しながら、読み進めていくことにしたい。</p> <p>《学びの意義と目標》 テキストを忍耐強く読み進めていく覚悟をもって受講してほしい。哲学の正確な知識を身につけることは必要であるが、単なる暗記に終始しては意味がない。テキストの内容理解を深めることはもちろんであるが、自らが主体的に哲学と向き合うことを通じて、哲学することの意義を体感してほしいと思っている。</p>	
評価方法	
<p>学期末試験（教場レポート）の点数〔70%〕に、出席・授業態度などの平常点（状況に応じて小テストを行うことも考えている）〔30%〕を加味して総合的に判断する。</p>	
教科書	
プリントを配布する	

哲学概論	春 週1回 2単位
担当者：大賀 祐樹	
講義の目標及び概要	
<p>1、内容 狭い意味での「哲学」とは「真理」の探求や人間が世界を認識する在り方、言語や論理の厳密な正しさの追求等を意味するが、本講義ではそれだけに限らず、隣接する政治哲学、倫理学、法哲学等に関連するテーマも含めて概論する。特に本年度は、昨年関心が高まっていると思われる「正義」に関連したテーマを重点的に取り扱う。</p> <p>2、カリキュラム上の位置づけ この講義科目は、中学校社会科教諭および高等学校地理・歴史教諭免許取得単位認定の科目である。すなわち、この講義は、教諭となることを目指す者のための講義である</p> <p>3、学びの意義と目標 哲学において大切なことは答えを出すことではなく、問いを立てることである。様々な哲学者達がどのような試行錯誤をして問いを立てたのかという道筋を追うことによって、日常社会の生活においても浮上する問題に対して自分なりの問いを立てる力を養うことを目標とする。</p>	
評価方法	
<p>出席点（10%）、中間レポート（30%）、学期末試験（60%）によって評価する。</p>	
教科書	
<p>授業の中で指示する 大賀祐樹『リチャード・ローティ 1931-2007 リベラル・アイロニストの思想』藤原書店 仲正昌樹『集中講義！アメリカ現代思想 リベラリズムの冒険』日本放送出版協会</p>	

伝統芸能B	春集中 2単位
担当者：茂山 千三郎	
講義の目標及び概要	
<p>日本の伝統芸能の中で、最もシンプルかつ基礎となる芸能「狂言」を通し古典芸能の伝承を知る。</p> <p>・歴史、演技論、発声法、台本の分析、解釈、衣装分析、能舞台の機能と理論の解説。 ・基礎の演技「構え・歩み」から一曲の狂言の演技実習で衣装の着付けも含め、上演完成を目標とする。</p> <p>白足袋【靴下】の着用 実習の授業では、動ける服装で参加の事</p>	
評価方法	
<p>狂言鑑賞のレポート……20% 狂言実習の評価 ……60% 公演後のレポート ……20%</p>	
教科書	
プリントを配布する	

ドイツ語 I (初級A)	春 秋 週2回 2単位
担当者：小谷 哲夫	
講義の目標及び概要	
<p>○講義の目標及び概要</p> <p>1. 内容 本講義はドイツ語の学習未経験者を対象としたクラスです。アルファベットの読み方から始め単語・文章への読み、そして文法を一つずつ丁寧に学習していき、ドイツ語の文章読解へと進めていきます。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 基礎教育科目のなかの第二外国語の科目で、欧米文化学科の学生は「フランス語」とともに、選択必修科目です。</p> <p>3. 学びの意義と目標 国際化・情報化の時代の今日、英語以外の外国語を学ぶことは大きな意義があり、欧米の文化をより深く理解する上でも、必須条件であると思います。 本講義では、まず読みの徹底、そして文法と読解へと進みながら、初級ドイツ語を学んでいきます。日常的な表現による易しい文章であれば、自分で辞書を引いて読むことができる水準に達することを目標とします。</p>	
評価方法	
<p>出席率は重視します。また、読み・和訳・練習問題を各自やってもらうことを平常点とし、全体の4割、残り6割は定期試験の成績で評価します。</p>	
教科書	
<p>秋田 静男 他『ドイツ語インフォメーション（新訂版）』朝日出版社</p>	

ドイツ語 I (初級A)	春 秋 週2回 2単位
担当者：清水 威能子	
講義の目標及び概要	
(1) 内容 ドイツ、オーストリア、スイスなどの公用語であるドイツ語を修得する第一歩として、正確な発音や基礎的な文法事項を学び、その応用として実践的な会話練習を行います。また映画などの映像を用いて、ドイツ語圏の国の文化、歴史、現代の社会事情も紹介します。	
(2) カリキュラム上の位置づけ 1年次から受講できます。初学者を対象に発音から始め、ドイツ語Ⅱの準備を行います。	
(3) 学びの意義と目標 欧米の文化や社会を深く理解するためには、直接的に知識や情報を得ることができる語学力が必要です。この授業は、そのような語学力の修得という最終目的を視野に入れながら、ドイツ語の発音を正確に身につけ、基礎的な文法を理解した上で、簡単な自己表現ができるようになることを目標とします。	
評価方法 授業への積極的な姿勢を評価する平常点 (40%)、中間試験と期末試験 (計60%) により総合的に判断します。	
教科書 秋田静男 他『ドイツ語インフォメーション neu2』朝日出版社	

ドイツ語 I (初級A)	春 秋 週2回 2単位
担当者：宮崎 泰行	
講義の目標及び概要	
ドイツ語未習者を対象にした授業です。今年度から共通の教科書を使い、文字の説明 (名前・読み方) から始め、つづりと音の関係等、丁寧に時間をかけて進んでいきたいと思ひます。言葉の勉強ですので、文字だけからではなく、音や映像も交えドイツ語圏の情報も取り入れながら授業を進めていきたいと思ひます。辞書の使い方 (記述の約束事・必要な情報の取り出しかた・略語の理解の仕方等) も実際に教室で確認しながら進めます。基本的な文法事項の理解や基本的な文の読解のてがかりが得られるようになることを目標にしたいと思ひます。授業の後半には既習の文法事項を復習しながら、まとまった文を読む練習をしていきます。	
評価方法 中間試験と数回にわたる小テスト、それに、授業中の受け答えなどを勘案して評価します。総授業数の三分の一以上の欠席がある場合には試験を受けることができず、評価対象外になりますから注意してください。	
教科書 秋田 他『ドイツ語インフォメーション (新訂版)』朝日出版社	

ドイツ語 II (初級B)	秋 週2回 2単位
担当者：清水 威能子	
講義の目標及び概要	
(1) 内容 ドイツ語 I で学んだ内容を復習しながら、さらに新たな文法事項を学び、その応用として実践的な会話練習を行います。テキストの内容を学び終わった後は、読解力を養うために平易な文章を読みます。また映画などの映像を用いて、ドイツ語圏の国の文化、歴史、現代の社会事情も紹介します。	
(2) カリキュラム上の位置づけ ドイツ語Iを履修した後、受講できます。	
(3) 学びの意義と目標 欧米の文化や社会を深く理解するためには、直接的に知識や情報を得ることができる語学力が必要です。この授業は、そのような語学力の修得という最終目的を視野に入れながら、基礎的な会話表現を身につけ、短い文章を読み、書けるようになることを目標とします。	
評価方法 授業への積極的な姿勢を評価する平常点 (40%)、中間試験と期末試験 (計60%) により総合的に判断します。	
教科書 秋田静男 他『ドイツ語インフォメーション neu2』朝日出版社	

ドイツ語 II (初級B)	春 秋 週2回 2単位
担当者：宮崎 泰行	
講義の目標及び概要	
ドイツ語I既習者を対象にした授業です。今年度から共通の教科書を使い、ドイツ語Iで学んだ内容を受け、文法事項の学習を続けていきます。言葉の勉強ですので、文字だけからではなく、音や映像も交えドイツ語圏の情報も取り入れながら授業を進めていきたいと思ひます。辞書の使い方 (記述の約束事・必要な情報の取り出しかた・略語の理解の仕方等) も実際に教室で確認しながら進めることはドイツ語Iと同じですが、さらに使い込みができるよう練習をしましょう。基本的な文法事項の理解や基本的な文の読解さらに磨きをかけましょう。授業の後半で、教科書には掲載されていない受動態、関係代名詞、接続法を説明し、時間がとれば読本練習をして、実際の文を声に出して読む・意味をつかむ訓練をしたいと思ひます。授業時間に配布するプリントは原則として一回しか配布しませんので注意してください (公欠・忌引きはこの限りではありません)。	
評価方法 中間試験と数回にわたる小テスト、それに、授業中の受け答えなどを勘案して評価します。総授業数の三分の一以上の欠席数になると試験を受けられず、評価対象外になりますので注意してください。	
教科書 秋田 他『ドイツ語インフォメーション (新訂版)』朝日出版社	

ドイツ語Ⅲ(中級A)		秋	週2回	2単位
担当者：小谷 哲夫				
講義の目標及び概要				
1. 内容 本講義はドイツ語Ⅰ・Ⅱで学習したドイツ語をブラッシュ・アップするために、ドイツ語の作文練習をします。また、文法も一から再確認していきます。更に、Ⅰ・Ⅱで学習できなかった文法内容も学習していきます。				
2. カリキュラム上の位置づけ 基礎教育科目のなかの第二外国語の科目であり、ドイツ語Ⅰ・Ⅱを学んだ学生が、更に具体的にドイツ語の文章に触れ、より深くドイツ語を理解するための選択必修科目です。				
3. 学びの意義と目標 ドイツ語の作文練習を通して、これまでのドイツ語を「知っている」というレベルから「使える」レベルに高め、更には、日本語とドイツ語の表現法の違いも理解出来ることとなります。また、それは文法内容の再確認にもつながります。文章構造を詳しく捉えることは、一年次での学習内容とは大きな隔りがあるかもしれませんが、本講義をもってしてドイツ語の総合的な理解に結び付けていきます。				
評価方法				
出席率は重要視します。毎回練習問題に答えてもらったり、授業の取り組み姿勢を平常点とし、定期試験の結果を加えて、総合的に評価します。平常点は全体の6割、定期試験は4割とします。				
教科書				
池内宣夫『ドイツ語表現への誘い』郁文堂				

ドイツ語Ⅲ(中級A)		春	週2回	2単位
担当者：清水 威能子				
講義の目標及び概要				
(1) 内容 ドイツとオーストリアの都市(メルヘン街道、ラインとドナウ川流域、ベルリン、ウィーン、ザルツブルク)の文化や歴史を学び、それと平行してドイツ語の総合的な運用能力、特に読解力と自己表現力を養成します。最後は受講生の皆さんに、ドイツ語圏の国の情報を収集してグループ発表をしてもらいます。				
(2) カリキュラム上の位置づけ ドイツ語Ⅱを履修した後、受講できます。				
(3) 学びの意義と目標 今日ではあらゆる分野でグローバル・スタンダードへの対応が要求されており、私たちは国際感覚をもち、広い視野に立って思考する必要があります。この授業では、そのような社会的要請に応えられる、国際人としての教養を身につけることを目標とします。また中級程度のドイツ語の文意を、辞書を用いて確実に把握し、インターネット上のドイツ語の情報を収集できるようになることも目指します。				
評価方法				
課題を行った上での授業への出席と、積極的な姿勢を評価する平常点(30%)、発表(30%)、期末試験(40%)により総合的に判断します。				
教科書				
プリントを配布する				

ドイツ語(総合)		秋	週2回	2単位
担当者：小谷 哲夫				
講義の目標及び概要				
1. 内容 本講義はドイツ語Ⅰ・Ⅱで学習したドイツ語をブラッシュ・アップするために、ドイツ語の作文練習をします。また、文法も一から再確認していきます。更に、Ⅰ・Ⅱで学習できなかった文法内容も学習していきます。				
2. カリキュラム上の位置づけ 基礎教育科目のなかの第二外国語の科目であり、ドイツ語Ⅰ・Ⅱを学んだ学生が、更に具体的にドイツ語の文章に触れ、より深くドイツ語を理解するための選択必修科目です。				
3. 学びの意義と目標 ドイツ語の作文練習を通して、これまでのドイツ語を「知っている」というレベルから「使える」レベルに高め、更には、日本語とドイツ語の表現法の違いも理解出来ることとなります。また、それは文法内容の再確認にもつながります。文章構造を詳しく捉えることは、一年次での学習内容とは大きな隔りがあるかもしれませんが、本講義をもってしてドイツ語の総合的な理解に結び付けていきます。				
評価方法				
出席率は重要視します。毎回練習問題に答えてもらったり、授業の取り組み姿勢を平常点とし、定期試験の結果を加えて、総合的に評価します。平常点は全体の6割、定期試験は4割とします。				
教科書				
池内宣夫『ドイツ語表現への誘い』郁文堂				

ドイツ語(総合)		春	週2回	2単位
担当者：清水 威能子				
講義の目標及び概要				
(1) 内容 ドイツとオーストリアの都市(メルヘン街道、ラインとドナウ川流域、ベルリン、ウィーン、ザルツブルク)の文化や歴史を学び、それと平行してドイツ語の総合的な運用能力、特に読解力と自己表現力を養成します。最後は受講生の皆さんに、ドイツ語圏の国の情報を収集してグループ発表をしてもらいます。				
(2) カリキュラム上の位置づけ ドイツ語Ⅱを履修した後、受講できます。				
(3) 学びの意義と目標 今日ではあらゆる分野でグローバル・スタンダードへの対応が要求されており、私たちは国際感覚をもち、広い視野に立って思考する必要があります。この授業では、そのような社会的要請に応えられる、国際人としての教養を身につけることを目標とします。また中級程度のドイツ語の文意を、辞書を用いて確実に把握し、インターネット上のドイツ語の情報を収集できるようになることも目指します。				
評価方法				
課題を行った上での授業への出席と、積極的な姿勢を評価する平常点(30%)、発表(30%)、期末試験(40%)により総合的に判断します。				
教科書				
プリントを配布する				

ドイツ語講読A	春	週1回	2単位
担当者：原 一子			
講義の目標及び概要			
(1) 〈内容〉 文法の復習を希望する学生が多いので、初めの5、6回は『ABCドイツ語文法読本』により文法をさらった後、ドイツ語の平易な文献を1、2冊講読する。受講者数が少ないので、例年、学力、卒業論文などの研究テーマ、興味・関心などに応じて、学生と相談の上、時間配分や教材を決めている。			
(2) 〈カリキュラム上の位置づけ〉 4年次生を対象とする、大学・大学院共通の科目である。109A生以下は「ドイツ語Ⅲ」を、110A生以上は「ドイツ語(総合)」または「ドイツ語コミュニケーション」を修得済みか、同等以上の学力があると担当者が認めた者が履修できる。			
(3) 〈学びの意義と目標〉 ドイツ語のより高度な文献を多読することによって語学力を磨くことが本授業の目標である。大学院生と一緒にドイツ語の文法を復習し、文献を多読することで、ドイツ語の総合的学力の向上を図る。大学院進学を志す者にも益すること大である。			
評価方法			
出席率(30%)、授業中の課題の習得度(70%)により総合的に評価する。学期末試験を行うか否かは受講者数によって決める。			
教科書			
大岩信太郎 『ABCドイツ語文法読本』 三修社			

ドイツ語講読B	秋	週1回	2単位
担当者：片柳 榮一			
講義の目標及び概要			
『責任という原理』を著して、未来の世代への責任が、現代の最大の課題であることを訴えたハンス・ヨナスの書を読み、共に考えたい。			
評価方法			
出席率50%、期末試験50%の合計で評価する。			
教科書			
プリントを配布する			

ドイツ文化	春	週2回	4単位
担当者：満留 伸一郎			
講義の目標及び概要			
1. 内容 ドイツ文化は、決して現在のドイツ連邦共和国に限定されるものではない。これをドイツ語「圏」文化ととらえると、オーストリアやスイスの一部が、さらに歴史的には、現リトアニアの一部まで含むかつての東プロイセン、オーストリア=ハプスブルク帝国に属していた東ヨーロッパの広大な国々・地域などまで含まれる。ドイツ文化を支えた著名な「ドイツ人」の多くは、こういった地域で生まれ、活動した。このようなドイツ文化のひろがりや多様性を、図版、音楽、映画、インターネット・コンテンツなどを多用しながら解説していく。ドイツ文化の意外な面も知り得る、情報量豊富な講義になる。			
2. カリキュラム上の位置づけ 欧米文化入門の入り口のひとつとして、ドイツ文化を総合的に解説する。			
3. 学びの意義と目標 他文化理解とは、イメージの固定と解体という往復運動のくりかえしであり、そのきっかけを与えることが本講義の目的。安易な単純化によって他文化を型にはめることの危うさを学び、そのような意識をドイツに限らず広く応用できるようになってほしい。			
評価方法			
平常点を加味した出席と、学期末試験により判断。割合としては出席40%、試験60%。			
教科書			
プリントを配布する			

統計学	春	週2回	4単位
担当者：松原 望			
講義の目標及び概要			
統計学はむずかしくありません。私たちの日常生活を通して学ぶことでよりおもしろい知的世界が広がります。今の「社会」を生き抜くために必要な統計学の基礎的知識と見方を学んでいきましょう。就職に役立つワード・エクセルの操作も扱います。初心者にはだれでも歓迎しますし、数学的知識も不要です。			
評価方法			
出席点50%、期末テスト50%			
教科書			
松原望『はじめよう！統計学超入門』技術評論社			

道徳教育の研究	
秋	週1回 2単位
担当者：市村 和子	
講義の目標及び概要	
<p>(目標)</p> <p>・小学校における道徳教育や「道徳の時間」の目標及び内容を理解するとともに、「道徳の時間」の指導過程や指導方法を学び、学習指導を構想する力を身に付けることができる。</p> <p>(内容)</p> <p>・「道徳の時間」の指導過程や指導方法について、事例研究を行う。また、いくつかの資料を基に資料分析の仕方や学習指導の展開の仕方を知り、学習指導案の作成、模擬授業等とおして授業の進め方を学ぶ講座とする。</p>	
評価方法	
出席30%、平常点(授業参加態度、関心・意欲)20%、課題(資料分析、指導案作成、模擬授業等)への取組50%により総合評価する。	
教科書	
文部科学省『小学校学習指導要領解説 道徳編』東洋館出版社	

道徳教育の研究	
春	週1回 2単位
担当者：石井 昇	
講義の目標及び概要	
<p>(1) (内容)</p> <p>本講義は中学校教育の中で、道徳教育がどのように位置づけられているか、その歴史の変遷について理解するとともに道徳教育の意義・目的・内容・方法等について実践事例をもとに考察する。指導資料を開発しそれをもとに学習指導案を作成する。</p> <p>(2) (カリキュラム上の位置づけ)</p> <p>教員免許を習得しようとする学生のために開設した。</p> <p>(3) (学びの目標)</p> <p>(1) 道徳教育の変遷について理解する。 (2) 指導資料をもとに学習指導案を作成することができる。</p>	
評価方法	
<p>・評価ポイントは課題発表・学習指導案の作成、期末テストとする。</p> <p>・出席状況を重視する(配点の35%)。</p>	
教科書	
文部科学省『「中学校学習指導要領」解説 道徳編』日本文教出版	

東洋史概説A	
春	週1回 2単位
担当者：赤坂 恒明	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容</p> <p>東アジアの一地域としての日本が他の諸地域といかなる関係にあったか、という問題を中心に、主に近現代の歴史のなかから関連するいくつかの事例をとりあげ、個別に論じる。「日本史」の立場からはしばしば看過される問題を積極的に取り上げ、近代的な国民歴史学によって体系化された「一国史」の枠組についても批判的に分析する。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>入門的な位置づけの基礎的な講義。日本史を学ぼうとする学生にも適している。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>「日本史」の枠にとらわれることなく、日本列島の歴史を、より広い視野から見るようになる。近現代の東アジアにおいて日本が関わった具体的な歴史事象を正確に把握するのみならず、体系化された歴史の枠組がいかに我々の同時代的な状況と密接な関係にあるかについても、理解できるようになる。</p>	
評価方法	
出席点10%、平常点20%、試験(小テストを含む)70%によって算出する。	
教科書	
プリントを配布する	

東洋史概説B	
秋	週1回 2単位
担当者：赤坂 恒明	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容</p> <p>東アジアの一地域としての日本が他の諸地域といかなる関係にあったか、という問題を中心に、主に近現代の歴史のなかから関連するいくつかの事例をとりあげ、個別に論じる。「日本史」の立場からはしばしば看過される問題を積極的に取り上げ、近代的な国民歴史学によって体系化された「一国史」の枠組についても批判的に分析する。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>入門的な位置づけの基礎的な講義。日本史を学ぼうとする学生にも適している。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>「日本史」の枠にとらわれることなく、日本列島の歴史を、より広い視野から見るようになる。近現代の東アジアにおいて日本が関わった具体的な歴史事象を正確に把握するのみならず、体系化された歴史の枠組がいかに我々の同時代的な状況と密接な関係にあるかについても、理解できるようになる。</p>	
評価方法	
出席点10%、平常点20%、試験(小テストを含む)70%によって算出する。	
教科書	
プリントを配布する	

読書と豊かな人間性	秋 週1回 2単位
担当者：齊藤 規	
講義の目標及び概要	
司書教諭資格取得の必修5科目のうちの1つ。読書の意義と目的の考察、子どもの読書環境、読書によるイメージ構築能力、発達段階に応じた読書、読書能力の考察方法、読書資料の種類とその特性、読書資料の選択と蔵書構成の考察、読書活動を進める環境整備、学校図書館における読書の導きと読書の生活化とのかかわりなどを考察する。	
評価方法	
出席3分の2を満たさないものは単位取得不可。その他、提出物、考查点を併せ総合的に評価。	
教科書	
図書館教育研究会『新学校図書館通論 三訂版』学芸図書株式会社	

特別活動の理論と方法	春集中 2単位
担当者：阿久戸 多喜子/小池 茂子	
講義の目標及び概要	
学校の教育課程の三つの領域の一つである「特別活動」について、まず、受講者の体験を振り返り、この科目の持つ児童への指導の意味を捉える。また、学校の教育課程における特別活動の位置付けを確認し、総合的な学習との違いを明確にしなが、学級活動」「児童会活動」「クラブ活動」「学校行事」の理論と実際の授業の進め方を、授業での実際の体験も交えて理解する。 実際に指導計画を立て、学校現場で効果的に実践できる資質や能力、態度を育てる。 都道府県採用試験の過去問を用いて模擬テストを行い、「特別活動」の教育的概念を理解することに役立つ。	
評価方法	
出席、授業レポート、試験（都道府県採用試験模擬テストを含む）、指導計画案への取組み内容により、総合的に評価を行う。	
教科書	
文部科学省『小学校学習指導要領解説特別活動編』東洋館出版社	

特別活動の理論と方法	秋 週1回 2単位
担当者：石井 昇	
講義の目標及び概要	
(1) 〈内容〉 中学校では、生徒の人間関係や連帯感、集団の一員としての自覚や責任感の希薄化等が問題になるなかで、「特別活動」は最も大事な教育活動である。本講義はそのことをふまえ「特別活動」の学校教育に占める役割、「特別活動」の沿革、「特別活動」の3つの集団活動の理論について理解するとともに、学級活動について学習指導案を作成する。	
(2) 〈カリキュラム上の位置づけ〉 教員免許を習得しようとする学生のために開設した。	
(3) 〈学びの目標〉 (1) 「特別活動」の沿革、3つの集団活動について理解する。 (2) 学級活動の学習指導案を作成することができる。	
評価方法	
・評価ポイントは課題発表・学習指導案の作成、期末テストとする。 ・出席状況を重視する（配点の35%）。	
教科書	
文部科学省『「中学校学習指導要領」解説 特別活動編』ぎょうせい	

都市化の地理学	秋 週2回 4単位
担当者：飯島 康夫	
講義の目標及び概要	
1. 内容 この講義は近代に入ってから顕著となっている都市化と人々の暮らしの関係を考え、身近な近隣住区にフィールドをおいて、住みよい街とはどんなものかを考察するものである。	
2. カリキュラム上の位置づけ 一年時に基礎的な政治経済、社会の学びを前提とした専門科目である。	
3. 意義、目標 一市民として自分の街を住みよくするため、気づき、行動するため、知識と歴史上の経験を学ぶことを旨とする。	
評価方法	
レポートのプレゼンテーション50%、出席貢献度等50%と総合的に評価する。	
教科書	
授業の中で指示する 水内不二雄『経済・社会の地理学』有斐閣	

図書館概論	春	週1回	2単位
担当者：若松 昭子			
講義の目標及び概要			
1. 内容 図書館の発生から現代への発展の経過を辿ると共に、図書館の理念、制度、現状、課題、図書館を取り巻く様々な社会状況について学ぶ。また、資料・情報の提供機関である図書館の機能や類型について解説し、これからの図書館運営について日本における関連施策の動向などを概観しながら考える。			
2. カリキュラム上の位置づけ 司書課程の最も基礎的な科目である。図書館情報学への入門的な位置づけであるので、司書資格を取得しようとする学生は、早目に履修してほしい。			
3. 学びの意義と目標 情報社会における図書館の意義と機能について理解し、情報の提供者としてよりよい助言ができるようになることをめざすと同時に、情報の賢い利用者として、情報を選択し活用できるようにすることを目標にする。			
評価方法 試験またはレポート40%、各授業時の課題35%、授業態度や授業への参加度25%			
教科書 今まど子『図書館学基礎資料(最新版)』樹村房 塩見昇『図書館概論 新訂(最新版)』日本図書館協会			

図書館概論	秋	週1回	2単位
担当者：岡谷 大			
講義の目標及び概要			
1. 内容 図書館の歴史と現状、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の仕事と資格、関係機関との関係や、今後の課題と展望を示す。			
2. カリキュラム上の位置づけ カリキュラム全体への展望を与えつつ、図書館への意識、学び、考えを深めるための誘いとなる。			
3. 学びの意義と目標 図書館の機能や、社会における意義や役割について理解できることを目指す。			
評価方法 期末試験0.5、出席0.5とし、出席を重視する。			
教科書 塩見 昇『図書館概論』日本図書館協会			

図書館経営論	春	秋	週1回	2単位
担当者：河島 茂生				
講義の目標及び概要				
(内容) 本授業の狙いは、具体例を織り交ぜながら、図書館運営にかかわる計画策定や評価の仕方、組織構造などについて学ぶことである。図書館の運営は、大別すると[1]経営管理、[2]日常業務(作業)の2段階に分けることができるが、[2]日常業務(作業)は「図書館サービス論」などの授業で詳細に触れられるので、本授業では、[1]経営管理を重点的に学習することにする。				
(カリキュラム上の位置づけ) 司書課程資格科目群 (学びの意義と目標) 図書館は、情報資源を収集・管理する組織であって、現代社会における情報基盤として重要な役割を果たしている。本授業では、よりよい図書館運営のために、その経営のあり方について考えていく。				
評価方法 出席状況と授業態度および試験結果を総合して評価する。				
教科書 高山正也編著『図書館経営論 改訂版』樹村房				

図書館サービス論	春	週1回	2単位
担当者：岡谷 大			
講義の目標及び概要			
1. 内容 図書館サービスとマネジメントの関係、利用空間の整備といったインフラから説明し、貸出サービスなど具体的なサービスの構造と展開について講義する。とくに最近のインターネットによるサービスなど情報サービスについても説明する。さらに図書館には様々な利用者があるのでそれぞれに応じたサービスや、さらには利用者との交流など一歩踏み込んだサービスについて考える。			
2. カリキュラム上の位置づけ 図書館経営・運営を背景にふまえた具体的な内容となっている。また近年のインターネットなどの普及により情報検索サービスとも関連が深い。			
3. 学びの意義と目標 具体的な図書館サービス・情報サービスの構造が理解できるようになること、多様な利用者への人的サービスが理解できるようになること。			
評価方法 期末試験50%、出席50%とし、出席を重視する。			
教科書 小田光宏『図書館サービス論』日本図書館協会			

図書館実習	春	週2回	2単位
担当者：若松 昭子			
講義の目標及び概要			
1. 内容 図書館情報学の理論を図書館業務にいかす為に図書館において夏期休暇中の2週間実習を行う。授業で学んだことを生かすよい機会なのでぜひ参加してほしい。実習館には、主として身近な公共図書館を選び、各自で図書館に実習依頼をし許可を得てくることを原則とする。実習に入る前に、現代の図書館における課題から、各自テーマを選び掘り下げる。実習終了後にはそれぞれの研究課題を整理分析して、その成果をまとめ発表する。			
2. カリキュラム上の位置づけ 司書課程のなかでは、発展的な科目に位置づけられる。基礎的、応用的科目を履修した上に、実習体験を積むことで、図書館への理解を深めてほしい。			
3. 学びの意義と目標 図書館実習は、利用者の立場と司書の立場の両方の経験を得て司書としての使命を確認することにある。実際の図書館現場を体験することで、知識が生きたものとなり、図書館がより身近に感じられるはずである。生涯学習社会における賢い情報利用者としての、また情報のよきアドバイザーとしての実践力を身につけることを目指す。			
評価方法 実習指導者による評価と実習記録によって評価する。			
教科書 授業の中で指示する			

図書館資料論	春	週1回	2単位
担当者：岡谷 大			
講義の目標及び概要			
1. 内容 図書館資料に関してその意義や類型（印刷資料、非印刷資料、特殊資料など）を概説し、とくに図書館の自由との関係や、蔵書構成、資料選択など図書館・情報学の中核となる理論について紹介、考察する。さらに出版と販売、資料の受け入れ、書庫管理などの具体面も説明する。			
2. カリキュラム上の位置づけ 専門資料論の基礎分野となる。図書館の内と外（出版、販売など）の関係にふれている。			
3. 学びの意義と目標 図書館資料に関してその類型や構造が理解でき、さらに出版と販売、資料の受入など具体的な側面も理解できること、蔵書構成と資料選択といった理論面の理解がなされること。			
評価方法 期末試験50%、出席50%とし、出席を重視する。			
教科書 馬場俊明『図書館資料論』日本図書館協会			